



「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」の 炬火トーチ及び炬火受皿について

希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の開・閉会式や市町村が実施する炬火イベントで使用する「炬火トーチ」及び「炬火受皿」が決定しました。

「炬火トーチ」は、市町村で採火された炬火をひとつに集火し、希望郷いわて国体、希望郷いわて大会の炬火として、両大会の開会式会場の炬火台に点火する際に使用します。また、来年度から実施される各市町村の炬火イベント等において、「炬火トーチ」と「炬火受皿」を活用するなど、より一層の機運醸成を図っていきます。

1 炬火トーチ、炬火受皿について

	デザイン	コンセプト
炬火トーチ		<ul style="list-style-type: none">・ 5本の曲がったパイプを用いて、岩手県の花である「キリ」を表している。・ 5枚の花びらで「全市町村の炬火イベントで採火した炬火を中心部に集め、希望郷いわて国体・大会の火として、復興に向かって前進する姿」を表現。・ 持ち手グリップには 33 市町村の名前が刻まれ、「市町村が一丸となって、復興支援への感謝の思いを伝える様子」を表現。
炬火受皿		<ul style="list-style-type: none">・ 昭和 45 年の岩手国体で使用した、馬上杯をかたどった炬火台をモチーフとし、前回大会の記憶を継承するストーリーを演出。・ 南部鉄器をイメージした風合い。

2 デザインについて



田中 隆充（たなか たかみつ）氏
国立大学法人 岩手大学教授
博士(工学)・工業デザイナー
東京都出身

- ◇ (株) 田中デザインオフィスにデザイナーとして勤務し、家電、携帯電話、産業機械、照明器具等のデザインに携わり、幅広い分野でグッドデザイン賞等を多数受賞。
- ◇ 現在は南部鉄器のデザインではヨーロッパを中心に多くの製品を発表。岩谷堂筆筒では大学の研究室として 2005 年から家具を中心とした共同研究を行い、学生のデザインディレクションを中心に、若者からの視点で伝統工芸を見直す活動も行っている。
- ◇ 震災後は沿岸地域の被災企業を中心にデザイン支援の活動も行っている。

《ご本人からのコメント》

- ・ デザインをさせて頂いたことに大変感謝している。
- ・ 通常の製品デザインとは異なり、炬火トーチに関する情報が殆どなく大変苦労した。
- ・ 燃烧部分も含め、基本的にゼロから設計を進め、耐火性等多くの制約があり容易ではなかった。
- ・ 見えない部分に多数の実験的な制作工程があり、県内の中小企業の高い技術力に助けられた。
- ・ 私の生まれた年である前回の国体以上に盛り上がることを期待したい。

※田中教授、トーチ及び受皿の画像データが必要な場合は、実行委員会事務局までお知らせください。

先催県及び第25回岩手国体の炬火トーチ画像一覧

県名	岩手県 前回大会(S45)	新潟県(H21)	千葉県(H22)	山口県(H23)
炬火トーチ デザイン				
県名	岐阜県(H24)	東京都(H25)	長崎県(H26)	和歌山(H27)
炬火トーチ デザイン	 <p>炬火トーチ</p>			